

# る ルネッサンス 21世紀の 江戸見附

豆記者 まめきしゃ  
伊田菜津美 いだなつみ

江戸時代、今の市民センター辺りから古花水橋辺りまでは、東海道の宿場だったそうです。

その出入口口に門のように造られたのが見附です。江戸側にあったのが江戸見附、京都（上方）側にあったのが上方見附と呼ばれ、道の両側に一つずつありました。でも、道路を広げるのに邪魔となり、明治時代になると取り壊されてしまいました。明治二十年に平塚駅ができてから、町の中心は駅のほうへ移りました。しかし今でも、主に富士見学区が「平塚宿」と呼ばれています。この平塚宿は、あの有名な徳川家康が造った東海道五十三次の一つです。平塚の江戸見附は、平成十三年に



▲復元された江戸見附

## 消防団第一分団。

きれいな平塚宿の絵



復元されました。その理由は、明治十四年にイタリア人が持ち帰った写真の中に、平塚の江戸見附が写っていたのが見つかったからです。その写真をもとに造られたのが、市営見附町駐車場にある江戸見附です。歴史つて、すごいですよね。

# な 中原御殿 徳川幕府の 基礎を練り

豆記者 まめきしゃ  
阿比留孝造 あびるこうぞう

中原御殿を造らせた人は、徳川家康だそうです。場所は今の中原小学校の辺りです。そのころの中原は、一面草地で、そのままだと東海道から見えてしまうので、松を植えて目隠しにしました。



中原御宮記 (部分)

中原御殿ができた時期は、一五九六年が一番有力です。徳川家康は中原御殿で、たか狩りで休憩をしたり、話し合いをしたりしました。



たか狩り行列。りっぱですね

徳川家康が死んでからは、中原御殿は使われなくなり、一六五七年に壊されて、その跡に東照宮が建てられました。この東照宮は、今は日枝神社にあります。最近では、四月のお祭りのときに、たか狩り行列や、よろいやかぶとをつけた子どもたちの行列などの行事になっています。これからも続けてほしいですね。

④ ランナーの  
たすきも走る  
遊歩道

豆記者 まめきしゃ  
谷口真理 たにぐち まり

湘南遊歩道とは、国道134号

の昔の呼び名だそうです。お正月の「箱根駅伝」に使われる道路で、花水川河口のレストハウスは中継地点になっています。

駅伝は昔、国道1号を走っていましたが、昭和三十六年、第三十七回大会のときに今の国道134号に変わったそうです。

かるたの絵札に描かれている大学は、東海大学と神奈川大学です。二校とも平塚にあるので、トツプ争いでしたらかつこいなあとと思います。



見附町を走る箱根駅伝  
(昭和25年・郷土写真家 山本登さん撮影)



現在の箱根駅伝

かもしれませんが、かるたの題材を選ぶときに箱根駅伝と遊歩道を選ぶ人が多かったので、題材となりました。そして、平塚からも選手が出て、平塚の海岸を走ったと聞いて、とてもうれしくなりました。これからも、みんなで応援していきたいですね。

⑤ 見渡せば  
コスモス一面  
花づつみ

豆記者 まめきしゃ  
佐藤いつみ さとう いつみ

花畑がある場所は昔、堤防がなく、水の被害があり、また粗大ごみが捨てられていたこともあったそうです。そこで、平成九年、堤防を造るときに、花畑もいっしょに造りました。

草取りなどは、ボランティアのみなさんが担当しています。中には、茅ヶ崎や大磯から来ている人もいます。咲いている花は、コスモス、ラベンダー、ポピー、ナデシコ、アジサイ、ローズマリーなどです。



水辺の楽校。風車が目印！



50万本のコスモス。きれいだね

花畑の北側には、水辺の楽校があります。ここは、元々あった自然の姿を残しています。例えば、くるみの木は上流から実が流れて来て育ちました。それから、カニやザリガニだけでなく、タヌキも近くにいます。いいですよ。見てみたいですね。ところで、水辺の楽校に造られた池に最初にやって来た生き物は何だと思えますか。正解はアメンボです。飛んで来たらしいですよ。その瞬間を見たかっただけなあと思いました。

ひ 控え土手  
今は纏の  
さんぽ道

豆記者 渡辺央将

「纏」という名前は、松延、友牛、久松という三つの村の一番上の文字を取ってできたそうです。最初は

「まとひ」だったけれど、「まとい」に変わりました。

金目川には、江戸時代に控え土手がいくつか造られました。その理由は、金目川の洪水を再び川へ戻すためです。『まといさんぽみち』になったのは、その中で一番大きい控え土手です。実は、東海道新幹線の北側にも控え土手が続いています。

『まといさんぽみち』に植えてある木の種類は三十種類以上あり、クヌギ、クロマツ、アラカシ、ヤマブキなどがあります。ぼくが三年生のころに、三年生全員でいろいろな球

根を『まといさんぽみち』に植えました。そのあと立て札に「掘らないでください。球根が植えてあります」と書いて立てました。でも、かなり掘り返されてしまいました。とても残念です。



大雨になると金目川は水がいっぱい

ところで、『まといさんぽみち』という名前は、ぼくが応募して、採用された名前なんですよ。



あると楽しいよ

も もののふの  
おたけびいずこ  
岡崎城址

豆記者 府川明史

岡崎四郎義実は、平安時代末の一二年、三浦義継の四男として生まれたそうです。

義実は、三浦一族の本拠地である三浦半島を出て、現在の平塚市と伊勢原市にまたがる岡崎に進出しました。そして、相模の西部に勢力を持つていた中村一族と親せきになり、開発を進めました。

一一八〇年、源頼朝が平氏に対抗して戦いを始めました。三浦一族や中村一族は頼朝の味方になり、六十九歳になつていた義実も戦いに加わりました。そして、一一九二年、頼朝は征夷大將軍になります。

頼朝は征夷大將軍になります。

義実には、純粋な鎌倉武士としての話が伝わっています。頼朝からもらった服を着て、喜んだのをからかわれて大げんかをした話や、自分の息子を殺した長尾定景が、毎日お経を読む姿に感動して許した話などが伝わっています。

みなさんも、岡崎公民館にある銅像や地図を見に来ませんか。



岡崎城の地図



岡崎四郎義実の銅像